

令和4年度 第1回中なかいいネ！推進会議 議事録	
日 時	令和4年5月30日（月） 10時00分～11時30分 14時00分～15時30分
開催場所	中区役所本館7階703・704会議室
出席者	【午前の部】 川上委員長、杉野委員、芦原委員、井上委員、藤平委員、依田委員、松澤委員、鈴木（敏）委員、小島委員、鶴島委員、丹羽委員、守屋委員（代理：早川氏）、鈴木（聖）委員 【午後の部】 川上委員長、蕭委員、高橋委員、今野委員、長尾委員、金子委員、木村委員、渡邊委員、梁田委員、大西委員（代理：佐々木氏）、内藤委員、森田委員、越川委員
欠席者	【午前の部】 梅田委員 【午後の部】 秋山委員、緒方委員、清水委員、辺見委員
開催形態	公開（傍聴者0人）
議 題	1 中なかいいネ！推進会議委員の任期について 2 第4期中区地域福祉保健計画について 3 【午前の部】 中なかいいネ！の地区別の取組について 【午後の部】 もっとみんなで、「えん結び」と「元気いっぱい」の活動を広げるために
決定事項	中なかいいネ！推進会議委員の任期を計画推進期間の5年に改正する。
議 事	【午前の部】 1 中なかいいネ！推進会議委員の任期について 議事1について、事務局から資料(4)を用いて説明。 推進委員の任期を計画の策定から振り返りまで一体的に取り組むため、計画期間に合わせて5年間とすることを提案。  →承認された。  2 第4期中区地域福祉保健計画について 議事2について、事務局から資料(5)を用いて説明。 第4期計画の概要説明、中なかいいネ！講座の実施報告、ロゴマークの紹介を行い、7月を中なかいいネ！推進月間として周知していくことを報告。  3 中なかいいネ！の地区別の取組について 最近の地区の活動状況について、グループワークを実施。

テーマ：各地区の最近の活動状況について

例)・地域活動を再開した（または再開を検討するに至った）きっかけ

- ・地域活動を行うにあたり工夫したこと
- ・地域活動を再開してみて感じたこと など

グループA：芦原委員、井上委員、杉野委員、丹羽委員

グループB：小島委員、鈴木（聖）委員、藤平委員、依田委員

グループC：鈴木（敏）委員、鶴島委員、早川委員、松澤委員

3グループでの意見交換後、川上委員長による全体のまとめ。

<全体のまとめ>

- ・どの地区も着実に地域活動を再開している。再開し始めたからこそ、多文化共生、集合住宅が多い地域では流動性の高い住民の地域活動への参加などの課題が出てきた。
- ・外国人をうまく巻き込んでいくために回覧版を3か国語で作成した、感染症対策としてサロン活動では広い部屋を使用し、机の配置を工夫したなどのお話があった。活動に参加される方に配慮しながら活動が徐々に回復していくのではないかな。
- ・地域の取組を「地域は地域でやる」と区計画と切り離さないでほしい。
- ・独居のお年寄りの食事について、栄養面に課題が見えてきたので、見守り委員会を立ち上げ、ヘルスメイトの協力を得ながら取り組んでいる地域があった。この事例は「元気いっぱい」につながっている。また、サロンの活動や地域の活動は「えん結び」の強化につながっている。
- ・(川上委員長は) 地域防災について携わっている中で地域のつながりが大切と感じている。福祉の分野で自助・共助・公助それぞれの役割分担が大切といわれているが、地域防災も同じ。地域で助け合っていかなければならないこと、自分で頑張らないといけないこと、行政でなければできないことがある。
- ・地域防災計画を作るにあたって、地域の協力が必要不可欠。地域の「えん結び」がなければ作成は難しく、その下地になっているのが地域の活動。
- ・区役所や区社協、地域ケアプラザが連携して地域を支える体制ができているので、頼っていただきたい。

【午後の部】

1 中なかいいネ！推進会議委員の任期について

議事1について、事務局から資料(4)を用いて説明。

推進委員の任期を計画の策定から振り返りまで一体的に取り組むため、計画期間に合わせて5年間とすることを提案。

<質疑応答>

(蕭委員) 委員の任期開始はいつからか。

(事務局) 第4期計画の推進期間である令和3年度からと考えている。

(蕭委員) 委員の任期は計画推進期間とずらした方が計画の継続性が保たれるのではないか。

(事務局) 今回の規約の改正の趣旨は、計画推進期間の中で委員が入れ替わることを改善し、一体的に計画を進めることにある。

(川上委員長) 任期が計画期間で切り替わったとしても、計画の構成団体が大きく変わることはない中で、それぞれの団体から同じ人を推挙していただくなどすれば、継続性は担保できるのではないか。

→議事1について、承認された。

2 第4期中区地域福祉保健計画について

議事2について、事務局から資料(5)を用いて説明。

第4期計画の概要説明、中なかいいネ！講座の実施報告、ロゴマークの紹介を行い、7月を中なかいいネ！推進月間として周知していくことを報告。

<質疑応答>

(川上委員長) 7月の推進月間について、区の重点事業案はあるか。

(事務局) 前述の説明での、広報よこはま7月号での特集記事に加え、地域紹介パネルの展示を中区役所で行う予定。

3 もっとみんなで、「えん結び」と「元気いっぱい」の活動を広げるために各委員から自己紹介及び昨年度における各団体の取組の紹介。

<委員による昨年度の取組報告等>

(蕭委員) コロナ禍では、医療機関としての歯科医院の運営維持に取り組んできた。歯科医師会における感染率は非常に低く、感染者は10名程度。手洗い・うがい・マスク着用の徹底や空気の入替えといった院内の環境整備による結果だと思う。

(高橋委員) 地域ケアプラザにおける多職種連携の勉強会を開き、薬局や薬剤師の活用の仕方を伝えてきた。コロナ禍では、薬剤師はワク

	<p>チン接種会場の裏方としてワクチンの調整や、神奈川県検査無料化事業への協力、薬局における予防接種に関する相談に応じてきた。薬局は、従来、市販薬の購入や調剤が主だったが、薬局を地域保健の中に位置付けるという厚生労働省の方針のもと、地域のつながりの中で、薬局や薬剤師という資源の新たな使い方を見出していただければと前向きに進めている。</p> <p>(今野委員) 商工会議所は商業・工業の経済団体として、商店街や地域活性化団体とともにイベントや交流会に協力している。コロナ禍では、イベント等を開催することができなかった。5月頃から、活動再開の動きがある。今後、商店街や地域団体と連携し、活動を広げていけたらと思っている。</p> <p>(長尾委員) 中区障害者団体連絡会（区障連）は、20数年続いている団体。主な事業として、障害に関する行政への要望提出や、障害者団体の自主製品の販売推進を行っており、地域交流としては、毎年10月にポレポレまつりを開催している。障害者団体の集まりであり、多くの障害者や関係機関が関わるため、コロナの影響をかなり受けた。今後も様々な活動をしていきたいと思っている。</p> <p>(金子委員) おもちやのドクターネットワークというボランティア団体として中区ボランティア連絡会に所属している。地区センター等で子どもたちの壊れたおもちゃの修理を20年以上している。コロナ禍では、対面での修理ができなかったが、おもちゃを預かり、修理後に返すという工夫をしている。子どもたちに喜んでもらえることが活動の糧になっている。できる限りの協力をしていきたい。中なかいいネ！を発展させ、住んでいてよかったと思えるまちにしていきたい。</p> <p>(木村委員) 横浜市国際交流協会は、横浜の多文化共生を進めるため、主に外国人のサポートをしている。中区では、なか国際交流ラウンジを運営。横浜市内の外国人数は約10万人で、中区の外国人数は総人口の10%前後と市内で最も多い。外国につながる中学生の学習支援教室を開始して10年経つ。中区では、言葉が堪能な子どもたちを「支援の対象」としてだけでなく、「人材」としていろいろな機会を与えていただき、地域において、通訳や翻訳などの役割を担いつつある。この推進会議でも「多文化共生」を一つの大きなテーマとして取り上げていただいている。このような機会を活用し、日本と母国両方に理解がある若い人材が地域に入っていけるように協力していきたい。</p> <p>(渡邊委員) 中区には6か所の地域ケアプラザがあり、皆様と日々連携を取りながら地域活動を進めている。コロナ禍では、活動中止や縮小が多かったが、ケアプラザは積極的に地域に出向き、どのような形で活動ができるのか情報発信をしてきた。特に、マリンFMや</p>
--	--

	<p>広報誌、SNS等の様々な手段を使って情報提供を始めた。スマートフォン講座やウェブ会議等の集まらない形での交流を提案している。できる形で推進していきたい。</p> <p>(梁田委員) 民生委員は、高齢者の見守り役や関係機関とのパイプ役を担っている。地区ごとに特色がある中、精いっぱい活動している。コロナ禍でも、メッセージカードを配布したり、食事会やサロンの回数・人数を制限したりするなど、地域とのつながりを保てるように工夫をして見守り活動をしてきた。今気になっているのは、ひとり暮らし高齢者のロコモティブシンドロームやフレイルなどの課題。ケアプラザとも相談しつつ、活動を広めていきたい。高齢者をただ見守るだけでなく、高齢者の居場所もこれから必要になってくると考えている。今年度は一斉改選もあるが、それぞれの課題を考えつつ、活動していきたい。</p> <p>(佐々木委員) 主任児童委員は、地域の小中学校との連携や、赤ちゃんとお母さんの交流の場である「親子のひろば」の運営、赤ちゃん学級や子育てサロンのお手伝いをしている。小中学校の卒業式や先生との対面での交流などもできなくなったが、電話でやり取りをするなど各地区で工夫して交流を図っている。ようやく親子のひろばも予約制で開催できるようになったので、回覧板や掲示板による周知、お母さんへの声掛けを行い、利用者が徐々に戻ってきてくれると思う。私が担当する石川打越地区は、地区内に小中学校がなく、南区の小中学校に登校するため、南区の主任児童委員と連絡を取り合う工夫をしている。一方、複数の学校を抱えている地区もあり、主任児童委員の中でお互いにお手伝いや分担をしてやっていきたいと思っている。</p> <p>(内藤委員) 食生活等改善推進委員会（ヘルスマイト）は、「栄養・運動・休養」の健康づくりの3本柱で活動を続けて、もうすぐ60年。伝統ある会だが、高年齢化が進んでいるのが課題。中区の13地区を8地区に分けて、各地区で講座を開くなど活動してきた。ここ2年、コミュニケーションを取りながらの料理も一切できず、活動の仕方はかなり模索している。紙で情報伝達をしても反応が返ってこないのが、分かってもらえているという感触がつかめず、戸惑う2年間だった。食を通じた健康づくりをもっと良い媒体や方法で伝えられないか、この1年間いろいろ考えており、少し何か見えてきたかなと思っている。</p> <p>(森田委員) スポーツ推進委員連絡協議会もコロナの影響があったが、世界トライアスロンシリーズ横浜大会に協力したり、文明開化ウォークラリーを開催したりした。私の担当する関内地区でも（コロナの影響で）いろいろな活動ができていなかったが、その中でも7月の小中学校の夏休みにはラジオ体操、12月に餅つき大会</p>
--	---

を開催した。各地区においても活動をできないでいるわけではなく、やろうとする、やりましょうという形で、今考えて活動をしている。

午前の部における、地域関係者の委員からの地区別計画の取組状況について、川上委員長から情報共有。

<意見交換>

(川上委員長) 内藤委員から、ひとり暮らし高齢者に栄養に関する講座をしたいという声がヘルスマイトさんから出たと話があったが、地域からの要請はあるのか。

(内藤委員) 今年度も6月にひとり暮らしの方向けに講座を開く予定。低栄養やフレイル予防などについて、栄養士の力も借りて行いたい。各地区でも実施していこうと思っている。

(高橋委員) 薬局や薬剤師の仕事については、地域保健や公衆衛生にも目を向けていきたいという大きな流れがある。具体的には福祉保健センターとの連携だと思う。今後、保健所の機能の一部を補完するような形で薬局を活用していけるかもしれないと思っており、中区から良い活動ができたらいいのではないと思っている。

(川上委員長) 具体的には健康相談などの場面になってくるか。

(高橋委員) おそらく今回のコロナで顕著になったと思うが、「本当にワクチンを打っていいのか」といった不確定な情報に不安を抱く声も聞いた。そういう方に対する相談を受けるとか、地域の町内会などで科学者の立場から説明できるのは、地域の薬局・薬剤師ではないかと思っている。この保健予防の部分でお手伝いできることが多く出てくると思っている。

(川上委員長) 地域に出向き、町内会などで健康教室や相談会、説明会などにご協力いただけるというのは非常に心強いのではないかと思う。

また、地域における外国人の方の行事参加という部分で、国際交流協会に相談して地域で活動に取り組んでいるという声もあったので、木村委員にも一言ご発言いただきたい。

(木村委員) 中区は多い地区では20～30%が外国籍住民。いかに共生していくかが区としての一つの大きな課題だと思う。その中で、両方の言語と文化が理解できる若者たちをうまく「人財」として育成し、地域に入ってもらおう。それは地域だけではなく、彼らにとってもよい経験となると思う。防災訓練やお祭りなど、日本の若い世代の参加者が少なくなっている中で、彼らが地域に入り、通訳や翻訳だけではなく、準備から後片付けも含めて地域の人たちと一緒に運営している状況もある。ぜひラウンジを活用してほ

	<p>しい。</p> <p>(川上委員長) 地域と外国人との連携というのも中区らしい取組だと思う。</p> <p>(蕭委員) 計画冊子には中区の自治会町内会の加入率が低いとだけある。町内会の活動でもお手伝いできることがあればいいと思うので、何かあれば考えてほしいと思う。</p> <p>(川上委員長) まとめになるが、本日お集まりいただいた関係団体の皆様は「横糸」、13地区の活動は「縦糸」という見方ができる。この計画を契機にして縦糸と横糸がうまくかみ合って、良いサイクルが作り出せればいいかなと思う。ぜひこの計画に参加している関係団体と地区との連携をもっともっと推し進めて、お互いにいい結果が導き出せるようにしていこうと呼びかけをしていけたらと思う。</p>
<p>資 料</p> <p>・</p> <p>特記事項</p>	<p>1 資料</p> <p>(1) 次第</p> <p>(2) 座席表</p> <p>(3) 中なかいいネ！推進会議委員名簿</p> <p>(4) 中なかいいネ！推進会議規約</p> <p>(5) 中区地域福祉保健計画『中なかいいネ！』第4期（令和3年度～7年度）</p> <p>(6) 中なかいいネ！計画冊子</p> <p>(7) 横浜型地域包括ケアシステムの構築に向けた中区アクションプラン</p> <p>2 特記事項</p> <p>今回は、令和4年9月に開催予定。</p>